

書評

道徳教育の取扱説明書

教科化の必要を考える

貝塚 茂樹 著

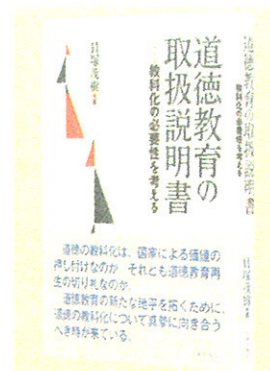
徳目の指導が基本と喝破

短期大学部名誉教授

(飯田 稔・千葉経済大学)

著者は、徳目を教えることが道徳教育の基本(52頁)と喝破。他者とのつながりを解した戦後社会と教育への批判。愛国心、国旗・国歌を論じつつ、道徳の教科化を提言する。道徳教育の充実、規範意識を育てることなど、各方面で言われて久しいのはなぜか。教科化すれば、それは解決するか。読み進めると、読み手は、教育の現状を考えるはずだ。

不思議な書名と思いつつ、本書を手にとった。そうしたら、副題に「教科化の必要性を考える」とある。そして、著者(武蔵野大学教授)は、日本教育史と道徳教育論の研究者として広く知られる人ではないか。早速、読み始めるとした。本書は二部構成。「道徳の時間」をどう活性化させるか」が第一部で、第二部は「『生命に対する畏敬の念』をどう育てるか」である。全197頁、話は、「修身科」悪玉論」だけでは何も解決しないことから始まる。占領軍の修身科評価と三教科(修身・国史・地理)停止指令・公民教育構想における修身科評価と、敗戦後の状況が語られる。そして、修身科教育の功罪が検証されていないことや、「道徳の時間」の形骸化はなぜなのか、に論は進む。特設時間を設けたところの、教育現場の空気を吸っていた人は学校を去っている。イデオロギーと対立の闘争は、教育に何をもちたか。

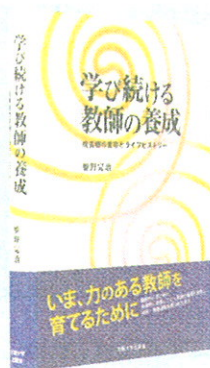


発行・学術出版会
発売・日本図書センター
1890円
03・3947・9387

学び続ける教師の養成

成長観の変容とライフヒストリー

姫野 完治 著



大阪大学出版会
4725円
06・6877・1614

本書のタイトルを決め、出版に向けてまとめ直しをしている時に、中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」が出されたという。「学習する人」「成長・発達する人」としての教師の視点から教員養成を見直し、これからの新しい教師教育を考える上で本書が役立つてほしいと願う。(規)

学生にとって有益なのか、カリキュラムの内側と外側において、学生はいかに成長・発達しているのかを探索したい。これが本書の礎。そして、著者のまなざしは「日本の学校教育の特質を維持する形で、教師の専門性や成長・発達を考える」ところにある。

成長・発達過程の実証的解明

本書は、気鋭の著者が、秋田大学で10年間にわたって教育・研究してきた成果をまとめ、大阪大学大学院に提出した学位請求論文に修正を加え再構成したもの。昨年3月に同論文が認められ博士(人間科学)が付与された。

本書は、①教師研究の類型と変遷②段階的教育実習における成長・発達③教職志望学生のライフヒストリー④の3章からなり、長期にわたる教師の成長・発達のうち教員養成段階に焦点を当て、教職を志望する学生が大学へ入学し、さまざまな教育実践経験を積み中で成長・発達していくプロセスを実証的に解明することを目的としている。

「体制やカリキュラムを整備することが、教師を目指す学生にとって有益なのか、カリキュラムの内側と外側において、学生はいかに成長・発達しているのかを探索したい。これが本書の礎。そして、著者のまなざしは「日本の学校教育の特質を維持する形で、教師の専門性や成長・発達を考える」ところにある。

女子のキャリア <男社会>のしくみ、教えます

海老原 嗣生 著

子どもの将来考える資料に

立高校校長

(海老原 信考・元千葉県)

著者はリクルートワークス研究所で『Works』編集長を務め、現在は㈱ニッチモ代表取締役。

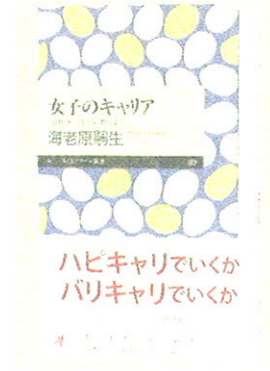
なお、女子、男子の両方に関わる本に「10年後に食える仕事 食えない仕事」渡邊正裕・東洋経済)がある。グローバル化で職業価値の大変動が起きるとする本書も、先生たちが児童・生徒の将来を考える資料になる。小学6年生でも10年後には22歳である。

座談会が3本あり、現状が手早く分かる。①「女性が普通に働く企業、女性に属する企業」②「育成・配属・仕事の任せ方での男女差」③「頑張れる女性、頑張れない女性」

キャリア教育で1時間使うより、女子生徒にこの座談会のコピーを配る方が効果的かもしれない。

先生たちが女子児童・生徒に将来展望を語るとき、学校内の常識だけに頼るなら、中身は薄い。本書は中高生が読むプリアー新書、要チェックである。

資生堂の入社後最初の配属先は「親元から通えないひと暮らしが前提となる地域」地銀の大光銀行(新潟県長岡市)も「女性の配属は自宅通勤圏外」としている。こうした「女性を特別扱いしない会社」では、女性進出が進んでいる。これは、男女差別のないステップアップを望むなら「女性らしく扱ってもらおう」特別待遇はなくなる、という意味でもある。



筑摩書房
882円
048・651・0053